

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

A. コースワークの充実・強化

⑥その他

《人社系》

●奈良女子大学人間文化研究科国際社会文化学専攻、社会生活環境学専攻 「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

- ・アカデミックな基盤を専門基礎群と専門応用群により培い、さらにスキルや専門応用力を高める実践基礎群および実践応用群を履修するという、体系的カリキュラムを編成したが、大学院生の多様なニーズに対応する内容の実践的科目を量的に十分に開設することは難しい。
- ・一般に人社系大学院では、広い分野に共通する技能・技術は明確ではなく、仕事に対する態度や姿勢の形成がまずそれらの基礎をなすと思われる。技能・技術のレベルでは、大学院生の進路の多様性に応じて多様な能力が要求され、それらに対応するだけの多様な授業を開講することは実際上困難である。本プログラムでは、多彩なゲストスピーカーを招へいし、授業選択を弾力化したが、十分とは言えない。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

- ・本プログラムでは、できるだけ教員の経験を生かして高度専門職業人の養成という目的に沿って、スキルを身に付ける実践的な科目の開設に努めたが、それだけでは不足する部分もあるため、実務経験を有する適任者を学外から非常勤講師やゲストスピーカーとして招聘した。しかし、受講生へのアンケート結果によれば、全ての項目について総じて補助事業期間を通じて高い評価を得ていたが、「社会に出てから直接・間接的に役に立つ内容であったか」という設問に平成22年度前期のみ否定的回答が約3割みられ、大学院生の多様なニーズを必ずしも十分に把握し切れていなかったのではないかと反省がある。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

- ・人社系の大学院生の多様なニーズにマッチする内容の実践的科目を十分に提供するためには、ニーズの把握に努めるだけではなく、学内の教員だけでは必ずしも十分ではないので、ニーズにマッチした外部の人材について情報を収集したり、招聘できるような人脈づくりを行う等の日常的な取組も必要であろう。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《人社系》

●奈良女子大学人間文化研究科国際社会文化学専攻、社会生活環境学専攻 「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

- ・本プログラムでは、広くさまざまな職場を訪問し、見学・質疑応答などを通じて大学院生にキャリア形成について考えさせるインターンシップ実習のほかに、より専門性に基づいたインターンシップ専門実習を開設した。しかし、本プログラムが複数の専攻を対象として実施されたこともあり、実に多様な専門分野からなっていたため、それらの全ての分野に十分に対応できるだけの専門的なインターンシップの場を確保することは困難であった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

- ・本プログラムが人社系の複数の専攻を対象として実施されたこともあり、実に多様な専門分野からなっていたため、必ずしもそれらの各専門分野の大学院生のニーズに応えるだけの多様な専門的実習の場を設けることができなかった。受講生へのアンケート結果によると、総じて高く評価されている中で、「社会に出てから直接・間接的に役に立つ内容であったか」という設問に否定的な回答が散見されたことは、他に適当なインターンシップ実習がないために、大学院生が必ずしも自らのニーズにはマッチしない可能性を感じつつ受講したことが考えられる。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

- ・大学院生のニーズの把握には努めたが、インターンシップ専門実習の場に関するニーズの把握が必ずしも十分ではなかった。また実習の場として公的機関だけではなく、民間企業の理解と協力がより一層必要と思われる。一般に、人社系の大学教員は企業との接点が乏しく、情報交換や関係構築が不十分であるので、この点に関して教員個人だけではなく大学としても改善のための工夫が必要であろう。